

Koryu

栗東国際交流協会

〒520-3088

滋賀県栗東市安養寺1-13-33

TEL 077-551-0293 FAX 077-554-1123

URL <http://www.mediawars.nc.jp/~rittoing/>

E-MAIL rittoing@mediawars.nc.jp

編集 総務広報委員会

Ritto International Friendship Association

平成15年(2003)年度 総会開催される

RIFAの第5回総会が5月11日(日)午後2時から栗東市役所で行われました。名誉顧問・國松正一市長の祝辞の後、約40人の出席者の中から大橋務さんが議長に選ばれ、前年度の事業経過に、収支決算・監査の報告と新年度の事業計画、収支予算等が終始熱心に協議され、満場一致で承認されました。

平成15・16年度の役員が決まりました

つづいて、任期満了に伴う役員改選に移り、右記の皆さんが選任されました。



新会長の挨拶

林 輝彦

このたび、猪飼光三郎氏の後任として栗東国際交流協会の会長を拝命しました。当協会は、設立当初より大きく成長してまいりましたが、今後ますます発展するよう頑張ります。会員の皆様もどうかよろしくご協力お願いいたします。

今も地球上では争争が絶えません。世界の人々は平和を願いながらもそれに反したことが起きているのです。平和、平和と唱えていても平和はやって来ません。国が違えば文化やしきたりも異なり、タブーもありましょう。しかし、隣人と仲良くしたいと思う心は同じだと思います。地球は小さくなりました。短時間でニュースは世界の隅々まで届く時代です。しかし、情報は届いても個々の心はメディアを通して間接にしか伝わって来ません。私達RIFAの仲間には、異国の人々や、外国で暮らした人々が多くなります。この楽しい仲間が心を開いて直接、間接に交流を深めることが私たちにできる世界平和への貢献の第一歩だと考えています。外国の友人を通して、私たちが字ばななかった知識を身につけ、彼らには日本の伝統や歴史、文化を知ってもらうことが大切です。そのためには、私たちは今一度日本の文化を知り、正しい歴史を知る必要があります。RIFAの仲間が楽しく切磋琢磨して世界に目を向け、教養を高め、見知らぬ国へ来て生活習慣の異なる環境に戸惑っている人々に笑顔とやさしいことばをかけることが、ひとりひとりの民間外交であると常々思っています。



名誉顧問	國松正一市長
顧問	猪飼 光三郎
会長	林 輝彦
副会長	海田 佳子 内藤 貞男
総務広報委員長	岡田 明男
交流事業委員長	藤崎 聡
文化事業委員長	中島 武彦
監事	小泉 一夫 川尻 二三子

退任ごあいさつ

猪飼 光三郎

この度、栗東国際交流協会の役員改選にあたり、会長の職を退任させていただくことになりました。在任中は公私ともに格別のご指導、ご懇情を賜り、お陰様で大変なく今日を迎えることができましたことを心より厚く御礼申し上げます。今後とも一会員として活動を続けたいと存じておりますので、倍旧のご厚誼をお願い申し上げ、退任の挨拶といたします。



総会の後、会員研修の講演が行われました

昨年、栗東市教員・中学生交流団16名を率いて中国を訪問された勝山明子団長(治田東小学校校長)と高谷恵子先生(栗山東小学校)から、「中国湖南省衡陽市を訪ねて」というテーマで、友好都市との交流報告の講演をお聞きしました。

子供たちの眼や教育者の視点から見たご報告は、情報機器を駆使したプレゼンテーションとともにわかりやすく、新鮮な印象を受けました。活発な質疑応答もあり有意義なひとときでした。(A.O.)



RIFA設立以来行ってきた定期講座の中国語講座も、4年を経過。初級レベルから中級レベルに移行できるクラスにと、一定数の受講生が希望するかぎり継続する講座として5月13日に開講しました。

中国語は、発音が難しいので、従来の10回のシリーズでは、十分な発音練習の時間がとれなかったけれど、今回からは、じっくり発音練習をしてもらえると、講師の史云香（シウンカ）

先生も大張り切り。テキストも新しいものにして、最初から順に仕上げていきます。

中国語は『音』が大切だということで、史先生はだれもが知っている「春晓」（春眠曉を覚えず……）を中国語で朗詠してくれましたが、さすがアナウンサー志望だっただけに、そのきれいなお声に受講生全員しばし聞き惚れ。

史先生は、受講生の方々が中国語独特の拼音（ピンイン）、四声を順調にマスターされるのを感じておられました。今後が楽しみです。受講生のみなさん、頑張ってください。

ペンシルヴァニア発 RIFA [1]

Koryu Vol.12でご紹介したワデル・ロウさん一家（ワデルさん・法子さん・メロディーちゃん・ナイル君）が、アメリカペンシルヴァニア州に移り住まれました。今回から数回にわたってペンシルヴァニアでのお話を届けてくださいます。



ナイル君

今年のイースターは4月20日でした。イースター（Easter）というのはイエス・キリストの復活を記念する復活祭で、教会で最も古い祝日です。言葉の由来は、アングロ・サクソン民族の、厳しい冬が終わり、暖かな光の中、いのちが芽生える春を祝う「春の祭り」です。春分の日の後、最初の満月の日から一番早く来る日曜日をイースター（復活祭）と呼びます。十字架の上で磔にされ一度は死んだキリストが蘇ったことを祝う日です。その二日前の金曜日は、グッド・フライデー（聖金曜日）と呼ばれ、この日はキリストが磔された痛みを分かち合う日です。

というわけで日本ではあまり話題にならないけれど、キリスト教徒にとってはクリスマスと並んでとても大事な行事なのです。もちろん、敬虔な人ばかりではないので、普通の人にとってはただの休暇でしかありません。そして子どもたちにとっては、イースター・エッグ、お菓子がたくさん食べられるといううれしい日です。商店街などでは、イベントとしてウサギの衣装を着た大きなイースターバニーが子供たちに手を振って、寄ってきた子たちに卵のお菓子を渡してくれます。



メロディーちゃん

娘のメロディーは4才ですが、今年が初めてのイースター。日本では私は特別なことはしなかったのですが卵もウサギも何もかも新鮮だったようです。大喜びで握手してお菓子をもらっていました。

うちでも、教会から帰るとエッグハントは始まりましたが、メロディーは慣れていなくて、5才のいとこのジャスティン（男の子）が一番たくさん取りました。メロディーは「ママ、2つ取れたよ、」と見せてくれていましたが、その間にも隠されていた卵はほとんど無くなって…。何だか親の私の方が夢中になっていたような…。

これは栗東市でも子供会などで企画してやったら簡単だし、面白いのではと思いました。

韓国語の講師や、通訳をするかと思えば、英語も話す。突然仕事を辞めたかと思うとウェブデザインの勉強に通い、やっとつかまえたと思ったら、「明日から、10日間ほど、キューバに行ってきた〜。」とメールが届く。今回はそんな変幻自在の永田純子さんの登場です。



ムーチョ・グスト(はじめまして)、キューバ

永田純子



大聖堂

キューバにハマる。ラムのように深く酔う。

キューバで思い浮かぶのはチェ・ゲバラとヘミングウェイ。アルゼンチン人のゲバラはキューバに命を捧げて死んだ。(男前ノ)米国人のヘミングウェイは20年間キューバに住んだ後、米国に戻り翌年自殺した。死の理由は知らないが、「20年も住んだら他の国に住めないよ」と勝手な納得。そんな魅力については作家の村上龍氏など多数が語っているのを一読を。

キューバへの日本人旅行者数はジャマイカの1/10という。行きにくい理由はある。北米、メキシコなどを経由する

ため到着に実質3日間かかる。社会主義国で日本ほど情報や物資が豊富ではない。日々の生活に配給がきている。外国人が安いと感じるものはほとんどない。しかしキューバでは音楽とダンスとラム酒があればいい。キューバ人がかもし出すユーモアやスタイルで充分楽しい。そしてそれこそがキューバの経済をも支えている。

「キューバで孤独をかみしめるにはどうしたらいいのだろうか?」私がハバナのブラド通りを歩くのを見たら、きっと長く居るかのように見えただろう。何人もの見知らぬキューバ人が「ジュンコ〜!」と声をかけてくるのだから。恋の悩みを聞いたり、ごはんを食べたり、小さいな子供とお絵書きしたりと、3日でこうなってしまう。おかしい。私は行くのに3日もかかるほど遠い国に一人で、初めて、来たのではなかった。ガイコクジンノと意識してしまう私達とは違い彼等は心の壁を作らない。言葉が通じなかったってニコニコ、するりと礼儀正しく会話に滑り込んでくる。世界中旅行し倒している私も、今回ラテンアメリカ初上陸にして完全ノックアウト。最近では私設キューバ観光協会と化している。



通りで遊ぶ子どもと大人



ずっと前から友達のように

読者コラムにご投稿ください

エッセイ、紀行文、詩、短歌や俳句など何でも結構です。採用分には薄謝をさしあげます。郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・TEL/FAXを添えて事務局までお送りください。なお、匿名を希望される方はその旨お書き添えください。